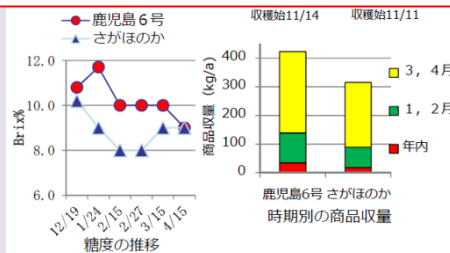


【全体概要】

当地域のいちご生産は50年以上の歴史があるものの、さらなるブランド化推進のため、従来品種に加え、県育成品種の導入により、実需者のニーズに添えていくことが求められている。このため、県が育成した品種名「鹿児島6号」（愛称「ぴかいちご」）の普及拡大を図り、地元市場や直売所、観光農園など、地域に根ざした産地育成をすすめ、農家所得の向上を図る。

新品種・新技術等の概要

- 品種名：「鹿児島6号」（愛称「ぴかいちご」）
- 開発年：2018年
- 特性等：①「かおり野」を母親、「紅ほっぺ」を父親として交配
②「さがほのか」と比べて葉柄長と葉身長は長く、草勢が強い。果梗枝も長い。
③「さがほのか」と比べて栽培期間を通じて糖度が高く、果実の色は肩部分まで赤く、色むらのない完全着色タイプ
④輸送性については、やや劣る
⑤電照処理、ジベレリン処理は不要



主な取組内容

- 品種の栽培特性把握と栽培技術の整理
 - ・品種の栽培特性の整理とマニュアル化
 - ・栽培技術検討会の実施
 - ・先進地（佐賀県等）での情報収集
- 品種特性の紹介と産地への導入推進
 - ・生産者への品種特性の紹介
 - ・新品種の親苗要望調査の実施と推進
- 輸送性の改善対策の実施
 - ・傷みの少ない輸送容器による試験販売の実施
 - ・市場等実需者の品質や食味に関する意見の集約

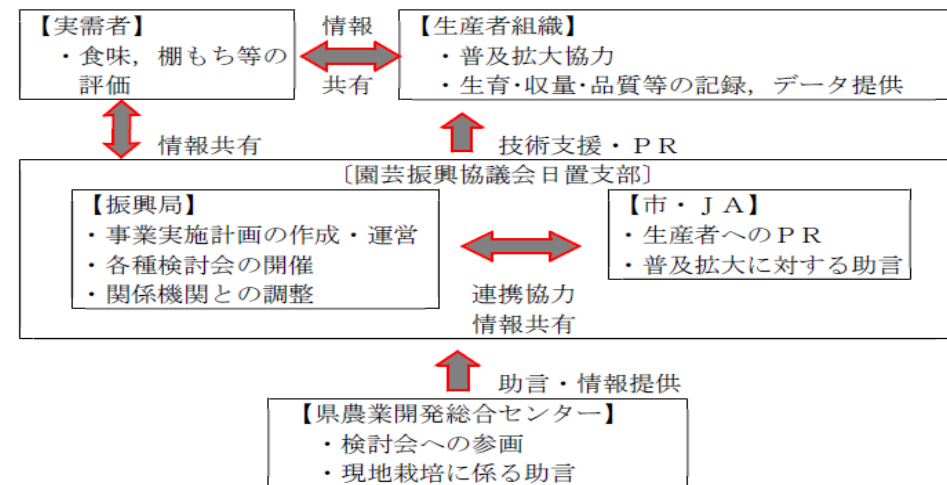


出荷対策検討会の実施



輸送容器を変更した試験販売の実施

事業実施の体制図



課題と今後の対応

- 1年目の取組（実績）
 - ・新品種「ぴかいちご」は7戸の生産者で出荷が開始、13戸の生産者が、親苗を発注し、産地への導入が進む
 - ・栽培技術現地検討会を開催し、品種特性等を周知
 - ・傷みの少ない輸送容器による試験販売を実施⇒一定の評価
 - ・市場関係者や実需者による食味調査により、品質の評価を把握
- 2年目の取組（計画）
 - ・新品種の栽培特性等の収集・整理による技術確立
 - ・現地検討会等を通じた品種特性等を周知及び生産安定
 - ・輸送容器の検討による果実品質の安定化
 - ・実需者への食味調査や意見交換を通じたニーズ把握